

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ライフエナジーチェェコロリ		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 5日		～ 令和8年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 5日		～ 令和8年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種が連携し、それぞれの専門性を生かした支援を行っている。	職員間で情報共有を行い、子どもの状況や課題について多角的に検討しながら支援に反映している。	定期的なミーティングを通して連携を深め、より一貫性のある支援の提供を目指す。
2	小集団活動を通して、社会性やコミュニケーション能力の育成に取り組んでいる。	事前にルール説明やお約束をし、安心して活動に取り組みやすいようにしている。必要に応じて視覚支援を行い分かりやすい工夫をしている。	活動内容の幅を広げていき、成功体験を積める機会を増やしていく。
3	一人ひとりの特性や発達段階に応じて手厚いトレーニングを提供している。	個別支援計画に基づき、目標や課題を明確にした上で、無類のないペースで支援を行っている。	支援内容の振り返りを行いながら、より効果的なトレーニングの提供に繋げていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士が交流できる機会を十分に設けられていない。	父母会や保護者会を実施しておらず、交流の場を設ける事が出来ないため。	連絡帳や面談等を活用し、保護者への情報提供の充実を図ると共に、交流の在り方を検討していく。
2	地域や他施設との交流について、十分とは言えない面がある。	実施方法や安全面への配慮が必要なため。	子どもの状況を踏まえながら交流の在り方について検討を進めていく。
3	屋外活動が少なくなってしまう。	子どもの特性や集中しやすい環境を考慮し、屋内活動優先した支援を行っているため。	引き続き室内活動を中心しつつ、子どもの状況や安全面に配慮しながら、必要に応じて屋外活動を取り入れていきます。